

Mitaka みんなの防災 だより

2024年1月発行

Vol.
03

CONTENTS

- 01 『東京くらし防災』『東京防災』
が新しくなりました！
- 02 令和5年度三鷹市総合防災訓
練に参加しました

- 03 STAFF COLUMN
「しあわせ運べるように」



Mitakaみんなの防災だよりとは

NPO法人Mitakaみんなの防災が定期的に発行する情報提供のお便りです。

01

『東京くらし防災』『東京防災』

が新しくなりました！

東京都は、関東大震災から100年を契機とした自助・共助の更なる促進を図るため、
『東京くらし防災』と『東京防災』のリニューアルを行いました。

STEP1

行動から
始めよう

『東京くらし防災』

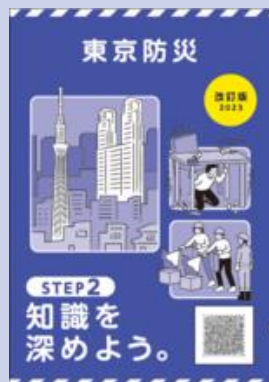


日常生活の中で取り組める防災行動を具体的に掲載しています。女性の視点のほか、高齢者、障がい者、子ども、外国人、性的マイノリティ等、多様な視点での防災行動を提示した内容となっています。

STEP2

知識を
深めよう

『東京防災』



防災に関する知識を更に深めるため、災害を取り巻く最新の情報などを盛り込み、地域や学校、職場など様々な場面で活用できる内容を掲載しています。

1月1日には令和6年能登半島地震が発生し、多くの方がお亡くなりになりました。
また今もなお避難所やご自宅などで避難生活を送られている方が多くいらっしゃいます。
お亡くなりになられた方々へのご冥福をお祈りするとともに、被災された方々へお見舞い申し上げます。

私たちの住む東京でも首都直下型地震の発生が危惧されています。
ぜひ、ご自宅に届いた『東京くらし防災』と『東京防災』をご一読いただき、
今できる備えや取組みについて改めて考えていただければと思います。

02 10月から11月にかけて市内7か所で総合防災訓練が行われました。
各地区とも多くの方が訓練に参加され、防災について改めて考える日になったと思います。
私たちMitakaみんなの防災も7か所の総合防災訓練に参加してきました!

西部地区

10月29日(日) 第二小学校

今年は何東大震災から100年の年でした。西部地区では当時の三鷹の様子や関東大震災が与えた影響についての展示を行いました。

また、日ごろの備えについて考えてもらうため、日常備蓄品のサンプルを展示しました。



関東大震災から100年

大沢地区

11月12日(日) 羽沢小学校

羽沢小学校では、当日、学校公開が行われていたため、小学生の参加はもちろんのこと、保護者の皆さんも訓練会場に足を運んでくれました。

防災食の試食も子どもから大人まで大人気でした! 簡単に作れること、そして何より美味しいことが人気の理由だったようです。



大人気の防災食



駅前地区

10月29日(日) 第四中学校

地域の方に加え、多くの四中生が参加し、日ごろの防災学習の成果を発表してくれました。自転車をこいで発電するコーナーは大人気! みなさん、停電への備えを学ぶとともに、発電の大変さを感じた様子でした。



自転車で発電

発電するのって大変!

メイン会場

井の頭地区

11月5日(日) 第五小学校

今年のメイン会場は井の頭地区。多くの三中生がボランティアで参加してくれました!

様々な防災体験に加え、炊き出しカレーの提供や、防災食の試食などのブースがあり、多くの人でにぎわっていました。



ドローン救出救助



とっても美味しかったです!

炊き出しカレー

東部地区

10月21日(土) 牟礼コミュニティ・センター

栄養士さんによる防災食コーナーでは試食をしながらレシピを教わりました。また、VRゴーグルを使って危険な道を歩く体験もリアルで怖かったです。

可搬ポンプの起動を中学生が行うなど、多くの子どもたちが楽しみながら訓練に参加していました。



防災食の試食



令和5年度 三鷹市

総合防災訓練 参加しました



連雀地区

10月29日(日) 第六小学校

連雀地区では一中生が大活躍! みんなでバケツリレーなどを実施してくれました。

隣接する下連雀六丁目防災広場でも仮設トイレを実際に設置するなどして、在宅生活支援施設の紹介などを行っていました。

みんなで協力!



バケツリレー

新川中原地区

11月19日(日) 東台小学校

11月とは思えないほどの暖かさで晴天に恵まれ、赤ちゃん連れのファミリーからお年寄りまで、多くの方が来場されていました!

会場内を回って東台小学校の防災設備に関するクイズに挑戦する「ぼうさいクイズラリー」にもたくさんの方が参加していました。



全問正解できたかな?



ぼうさいクイズラリー

しあわせ運べるように

昨年は、一九二三年に発生した関東大震災から百年という区切りの年でした。我が国では、終戦直後に南海地震や福井地震などが発生したものの、それ以降、甚大な被害を伴う大地震はほとんど発生せず、地震の静穏期とも言われていました。

しかしながら、一九九五年一月十七日、阪神・淡路大震災が発生。この地震は、近代都市を襲った初めての大地震で、都市の防災対策に多くの教訓を残すとともに、この地震を期に日本列島が地震の活動期に入ったとも言われました。その言葉が示すように、国内では、二〇〇四年に新潟県中越地震、二〇一一年には関東大震災に次ぐ被害となった東日本大震災、二〇一六年に熊本地震、二〇一八年に北海道胆振東部地震そして今年元旦に発生した能登半島地震と甚大な被害を伴う大地震が頻発しています。

日本列島は、四季があり、自然が美しく豊かで、地球上でも暮らしやすい国土で、私たちに平和で過ごしやすい時を提供してくれています。しかしながら、世界でも有数の地震大国であり、いっどこで大地震が発生し、遭遇するかわかりません。加えて、近年は、地球温暖化の影響で、台風やゲリラ豪雨などによる風水害の被害も大きくなってきました。多様化、甚大化する自然災害に日頃から備えておくことがいっそう大切になっています。

阪神・淡路大震災が発生してから今年で二十九年。私たちは、都市の安全神話が崩れたと言われているこの大震災からたくさんの教訓を学びました。自分の命は自分で守るという防災の基本である「自助」の大切さ、自分たちのまちは自分たちで守るといふ地域の「共助」の大切さ、ボランティア元年とも言われた地域を越えた「共助」の力の有難さなど。これらの教訓は、その後発生した自然災害にも活かされていますが、最も大切なのは、災害発生時に一人ひとりが「自助」に成功すること。自助に成功しないと地域での共助も、ボランティア活動にも参加することができません。高齢社会となり、自助が難しくなっている方たちも増えてきているからこそ、一人でも多くの皆さんが自助に成功して共助に加わることができるよう、大地震などの災害は必ず来る、だから常に備えておかなければならないという気持ち、「防災の心」を持ち続け「事前の備え」をしっかりとっておきたいものです。

阪神・淡路大震災では、私たちの一番の安息の場所である自宅で被災し命を失ってしまった方が多く、亡くなられた方、そして残されたご家族の無念さは計り知れませんが、そのような神戸の方々が、復興ソングとして口ずさむ歌があります。「しあわせ運べるように」という歌です。

♪地震にも負けない強い心をもって
亡くなった方々のぶんも
毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸をもとの姿にもどそう
支えあう心と明日への希望を胸に
響きわたれぼくたちの歌
生まれ変わる神戸のまちに
届けたいわたしたちの歌
しあわせ運べるように♪

この歌は、当時、甚大な被害があった神戸市中央区の小学校の先生が、神戸の復興を願うとともに、これからの日々を地震に負けずに大切に生きていってほしいとの想いで作詞・作曲したもので、児童たちに教えて一緒に歌ったと作詞・作曲した先生から伺いました。私も、震災後の神戸のまちを歩いていた時に小学校から歌声が流れてきて、胸が熱くなりながら立ち止まって聞いていたことがあります。

神戸の皆さんは、この歌を聞き、歌うと、当時の辛い記憶やもう会うことができない家族や友だちの笑顔を想い出し涙するだけではなく、教訓を忘れず「防災の心」をもって、災害への備えを怠ることなく生きていかなければと思うといっています。皆さんも、どこかでこの歌を耳にする機会があったら、ご自身の「防災の心」を今一度呼び起こし、災害への備えを見直してほしいと心から願っています。(M)

